



川辺高同窓会報

発行
川辺高校同窓会本部
発行所
〒897-0221
南九州市川辺町田部田 4150
TEL0993-56-1151
FAX0993-56-1152
県立川辺高等学校

「母校のさらなる発展のために」



同窓会会長
剛 森 田

昨年十一月二十日川辺高等学校創立百二十周年記念式典を縮小した形ではありましたが、県知事（代理）、県議会議長（代理）、県教育委員会のご臨席を賜り開催することができました。新型コロナウイルス感染症拡大防止の為一年延期しての開催となりましたが、準備のためにご尽力いただいた実行委員の皆様と先生方には長い期間にわたりご苦労

を掛けることになりました。また、同窓生の皆様には創立百二十周年記念として、母校で学ぶ後輩たちの教育環境を充実させるためのご寄付をお願いいたしましたところ、全国から多くのご厚志をいただきました。さつそく事業計画にもとづき、時代を先取りしたICT環境を整備し、生徒の皆さんが有効に活用しているところです。学校活性化のための資金援助顕著な学力向上をみせている生徒や部活動で活躍している生徒への激励金の授与、過去の記念事業で設置された空調設備の更新のための費用補助等、学習環境整備

に活用させていただきます。誠にありがとうございます。

私自身母校を訪問した際、校門を入ると出会った生徒さんが元氣よく挨拶してくれます。先生方に生徒さんの様子をお聞きますと、定数減により寂しくなったとはいえ、お互い切磋琢磨して自分の夢実現のため頑張っているとのこと。南九州市では全国でも有数の「青の俳句大会」が行われていますが、大会開始以来二十数年間なかなか取れなかった最高賞「福永浩二賞」や「鹿児島県知事賞」などを最近受賞しておりますし、なぎなた部は国体で鹿児島県代表のメンバーとして出場して準優勝を果たし、次こそは全国優勝をと頑張っております。また、毎年卒業生の二十パーセント以上の方が国公立大学へ進学するなど、川辺高校三年間の学習でしっかり

自分の将来を見据え力をつけて成長しており、このことが「県下で伸び率ナンバーワン」と言われる所以でしょう。創立百二十周年記念の行事を終え、同窓会は今後同窓生の親睦を深め、母校の発展、母校で学ぶ後輩たちの応援をつづけていきたいと思っております。

創立百周年記念式典を終えた県内の各高校では、創立記念事業のスパンを二十五年ごとに変えて行くところもあるようです。私どもの同窓会でも十年ごとの開催は短すぎるとのご指摘もあり、



今後の記念事業につきましてはその時の役員の皆様で協議していただくこととなります。スパンが長くなることでの懸念として、青春のページを思い出す機会が遠のき、母校に対する思いが薄れてしまうこと、周年事業のための皆様のご寄付から使わせていただいている学校への援助金が枯渇してしまうことが考えられます。そこで、皆様には毎年学校

支援助成金をお願いできないかと準備を進めているところです。川辺高校同窓会は、卒業生の母校愛で学校支援活動ができております。今年八月の総会をもって退任することになりました。後任には高田政雄副会長が就任致しました。これからも、母校川辺高校の更なる発展のため、ご協力よろしくお願いいたします。

川辺高校復活

～アフターコロナに向けて～



長 田 裕 一
校 前

川辺高校同窓生の皆様におかれましては、ますますご健勝にてご活躍のこと

とお慶び申し上げます。また、平素より母校に對しまして、物心両面に渡る御支援と御協力を賜り、心より御礼申し上げます。

さて、川辺高校は、令和三年十一月に無事創立百二十周年記念式典を終えました。新型コロナウイルス感染症

の感染拡大防止を鑑み、記念式典は本校生徒と職員及び実行委員の方々に限定した形で開催せざるを得ず、皆様へのご案内が出来ず大変申し訳なく思っております。また、今年度は新入生六十八名を迎えまして、二学級体制に戻すことが出来、全校生徒は百五十九名、職員二十五名となっております。わずか、十年ほど前までは、全校生徒四百五十名前後の在校生と職員四十数名でしたので、生徒数にして三分の一、職員数は、ほぼ半数にまで減少してしまいました。生徒数減少は顕著になり、全国の地方の学校においては、どこでも存続の危機に直面しています。

今年度は、「川辺高校再生」から「川辺高校復活」と位置づけ、在校生の夢の実現に向け、学校は「夢の応援団」として、生徒

によりそいながら、教育活動に専念する所存でございます。充実した高校生活を送っている姿こそが、地域の小・中学生とその保護者に学校をアピール（見える化）出来るものと信念を持ち、より魅力的な川辺高校を宣伝して参りたいと取り組んでおります。

さて、学校の現状は、これまで、世界的なコロナ禍の影響で、いくつかの学校行事が開催できませんでしたが、今年度は、徹底した感染防止対策を行いながら、PTA総会こそ、急激な感染拡大により、書面決議としましたが、神戈陵祭文化祭や音楽部の定期演奏会などは実施することが出来ました。更に九月の体育祭等の学校行事は、基本的に開催する方向で準備しております。

それでは、今年三月に卒業した六十六名の進路状況

について述べます。

◎国立大学 九名合格

熊本大学、鹿児島大学五名、宮崎大学、琉球大学、鹿児島体育大学

◎公立大学 五名合格

公立鳥取環境大学、山口県立大学、高知工科大学二名、名城大学

◎私立大学 三十五名合格

鹿児島国際大学十一名、鹿児島純心女子大学四名、第一工科大学、南九州大学、日本文理大学、九州看護福祉大学二名、崇城大学二名、長崎外国語大学、九州産業大学、福岡大学二名、久留米大学、徳山大学、福山平成大学、福山大学、至誠館大学、龍谷大学、東海大学、相模女子大学

◎国公立短大 一名合格

鹿児島県立短大

◎私立短大 七名合格

鹿児島純心女子短大五名、福岡こども短大、香

蘭女子短大

◎文科省所管外大学校等

一名合格

川内職業能力開発短期大学校

◎専門学校 十九名合格

◆医療系・看護系

十一名合格

(看護、言語聴覚、診療放射線、臨床工学、作業療法)

◆その他 八名合格

(美容、ミュージシャン系、ＩＴ系、インテリア系、保育系)

◎公務員 三名合格

鹿児島県警

自衛隊二名

ここに示した結果は、生徒たちが進路希望を最後まで諦めなかったことと、生徒及びその家族に加え、職員が、進路決定まで「ワンチーム」となって粘り抜いた結果です。国立大学九名と公立大五名の計十四名の合格は近年にない成果です。

た。(徳山大学は、入試の時

時は私立大学でしたが、入学後は公立大学に変わります。)

同窓会の皆さんから見れば物足りない結果かもしれませんが。しかし、彼らは、川辺高校の伝統である、人材教育と有為の人材確保に貢献するために優れた資質能力を育成する校風のなかで高校生活を送り、地元に貢献する意欲に溢れた好青年に成長しております。

次に、部活動の状況ですが、来年度開催が予定される鹿児島国体に於いて、上位の成果が期待される「なぎなた部」は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止に勤めながらも今年三月に兵庫県で開催された全国選抜なぎなた大会で全国三位を獲得することが出来ました。今夏のインターハイ(香川県)や今秋の国体(栃木県)においても好成績を期待し

ております。

また、文化系の部活では、書道部と美術部のコラボ作品の巨大なタペストリーが道の駅「かわなべせせらぎの郷」に掲示されており、書道部は、鹿児島水産高校の書道部と協力し鹿児島空港に於いて年末年始を迎える華やかな作品を製作しました。伝統のある音楽部は現在部員減少が著しい状況にあります。しかしながら、九名という少人数で第四十四回定期演奏会を立派に開催することが出来ました。最後に、サイエンス同好会は、今年度からサイエンス部となりました。昨年度は、南九州市内の小中学校において理科の出前授業を行い、大変好評を頂いております。今後も、これらの活動を継続していく予定です。このように生徒数は少数ですが、数多くの好成績をあげて文武両道を実

践しています。一方、生徒数減の影響で、川辺高校の単独でチーム編成を行い各大会に出場できる部活動が年々減少しています。すでに、南日本放送でも放送された通り、女子ソフトボール部が部員数減少で、三年生の引退をもって休部することになります。伝統的な野球部も今夏は単独チームで出場が出来ますが、秋以降は合同チームとなり、来春の新入生次第となります。

サッカーク部も、複数校と合同チームを組んで大会に出場をしていましたが、今後の継続が極めて困難な状況にあります。十年前には予想が出来なかった現状があります。来春の入学生で二学級の体制を維持する生徒数の確保は、こういう面でも重要になっています。

また、今年から神戈陵塾の開催時期を六月に変更し、今回は、山口美帆子氏

日置友幸氏の二名を講師としてお招きし、全校生徒が拝聴しました。

現在は、生徒会執行部を始め、部活動も新体制となつています。生徒たちは、毎日の検温やマスクの着用などの「新しい生活様式」も定着し、現在のところ川辺高校が起因した集団感染(クラスター)は起こっていません。

川辺高校は、昨年度の入学生が三十五名から今年度六十八名となり定数八十名には届いていないものの、南薩地域にある高校としては、生徒募集の面では善戦しております。アフターコロナの学校の体制作りに向けての構想を今から考えておく必要があります。それは、地域の将来を担う若者を育成する場として、川辺高校の存在意義を高めることであり、過疎地域の小規模普通科高校としての価値・

魅力をもっと高めることだ
と思います。これまでの価
値観の転換を図り、「都市部
の大規模高校」から「過疎
地の小規模高校」へとこれ
までと逆の変化（流れ）を
起こすことで、入学者を川
辺に誘う仕掛けが重要です。

・川辺高校には、生徒固
有の才能を徹底的に伸
ばす伝統がある。

・現代の情報社会（都市
部と過疎地域の差がな
い）において、才能の
開花はどこでも可能で
ある。

・過疎地ゆえに社会を変
革できる感覚（地域の
活性化を身近な問題
として感じる事が可
能）を持つことが出来
る。

・小規模校故の強みは、
教育改革の具現化に最
適な環境（小回りがき
く）である。
これらのことから、川辺

高校は、決して時代遅れの
学校ではありません。なぜ、
本校の起源である鹿児島第
四中学校が、この川辺に開
校されたという意義から考
えると、川辺高校の持つ使
命は明らかになります。本
校で学ぶ生徒の学力を伸ば
すことはもとより、それに
加えて、徹底的に個性を磨
き、光り輝く人物に育てる
教育が大切になります。地
域のリーダーとなる人財
を育ていく責務がありま
す。このことは、文部科学
省が提唱し、高校普通科の
再編の流れと一致しており

ます。本校は地域のことを
掘り下げて学ぶ「総合的な
探究の時間」を実践する高
校となり、同窓会や地域の
方々と連携し、「郷土を知
り」「郷土を学び」「郷土を
愛する」ような生徒たちに
対し「夢の応援団」として
生徒を育みます。

最後になりますが、これ
からも、これまでと同様の
深い御理解と御支援をお願
いいたしますとともに、川
辺高校同窓会のますますの
御発展と同窓生の皆様の御
健康と御多幸をお祈り申し
上げます。



令和四年六月四日（土）
にホテルグランドヒル市ヶ
谷にて三年ぶりに開催し、
五十七名の参加者の皆さん
が久しぶりにリアルの対面

で、大いに楽しみました。
そして開催後も、特に感染
等の問題が起こる事もな
く、終了することができま
した。

新型コロナウイルス感染
症の発生によって、開催す
るかどうかの検討をするこ
とになり、リスクが大きい
とのことで、ここ二年中止
しておりました。

母校の百二十周年式典の
開催にあたりても大変なご
苦労があったかと思いま
す。このコロナ禍で多く
のイベントの開催が中止
されていましたが、今のと
ころコロナ禍も少し落ち着
き、東京同窓会の開催を望
む声も多く上がっておりま
した。そのような声をう
け、リスクはありながらも
様々な状況を想定し、例年
と大きく内容を変えて開催
することとしました。ホテ
ルと協議し万全の感染対策
を行っていくこととしまし
た。入り口では全員検温を
させていただき、ひとつの
円卓への人数を五名までと
し、各席の間には透明の仕
切りを置きました。

さて、会についてですが、
会の冒頭では、本会の役員
を長年勤めてご尽力いただ
きました元副会長の大坪剛
様が、この同窓会の直前に
お亡くなりになられたとい
う悲報があり参加者全員で
黙祷を捧げました。

その後、森山会長を議長
として総会の議事に移り、
森山会長からご挨拶と母校
の現状のご報告がありまし
た。続いて会務報告、会計
報告、会計監査報告が行わ
れ、参加者全員から異議な
く承認されました。

総会の後、大平顧問によ
る乾杯のご発声の後、懇親
会で参加者皆さんが再会を
祝い、それぞれの席で歓談
が進んでいました。参加者
を制限した中で懇親会の時
間設定に余裕があったた
め、今年は同級生同士だけ
ではなく例年以上に多くの
方々が多くの円卓で会話が
できていたようです。

会の終盤には、校歌を流し皆で聞いた後、峯苦副会長による閉会のご挨拶、そして一本締めを参加者で小さな声で行い、第四十六回東京同窓会・懇親会は閉会となりました。

参加者の皆様からは、開催してよかった、参加できてよかった、楽しかったなどの声がたくさん聞かれました。

コロナ禍が落ち着き、そしてなくなることを祈りつつ、来年も開催し多くの皆様の笑顔を見ることができればと思っています。次第です。

母校の生徒の皆様、そして教職員の皆様、制



約の多い大変な時期ですが、ご健康に留意して皆さんで乗り越えていってください。東京同窓会も心から応援しています！

学校関係の行事から

(令和三年九月～令和四年七月)

〈令和三年〉

1. 神戈陵登山道の整備終了

創立一二〇周年記念事業

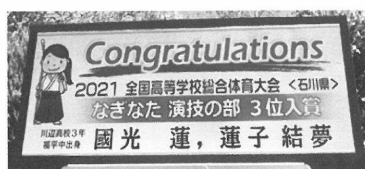
の一つとして、八月上旬に神戈陵登山道の整備が終わりました。



2. 北信越インターハイの

なぎなた競技において演技の部で三位入賞

八月九日(月)～八月十二日(木)に石川県白山市で行われたインターハイのなぎなた競技の演技の部で、國光蓮さんと蓮子結夢さん(いずれも三年)が三位に入賞しました。



3. ALTへの送別記念品贈呈

本校のALTとして尽力していただいたカアラ・オキーニ先生が、この度ご両親の住むドイツに帰国することになりました。神戈陵祭（体育祭）の日が本校での勤務の最終日でした。職員朝礼の最後で、記念品贈呈を行いました。

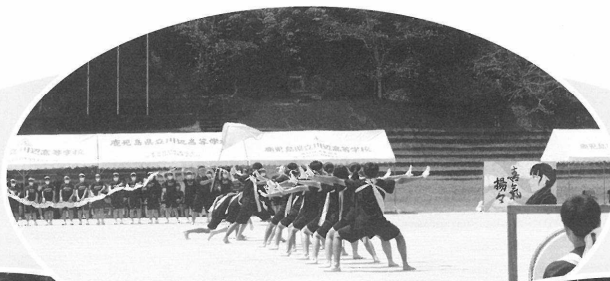


4. 第七十四回神戈陵祭（体育祭）

九月四日（土）に実施しました。コロナ禍の中、外部からの参加者を制限し、

実施種目を絞って行いました。そのような状況でありましたが、ひたむきに一生懸命競技する生徒の姿が見られました。競技の部は二

年生、応援の部は三年生が優勝を勝ち取りました。





5. 川辺高校第二十三回
三十三km遠行
十月二十二日（金）に実
施しました。今回の遠行も
昨年と同様にコロナウイ



ス感染防止の点から、遠行
のルートすべての監察（水
分補給等も含む）を教職員
のみで行いました。



6. 第二十二回神戈陵塾
卒業生に対して在校生へ
のご講演をいただく会を神
戈陵塾と銘打ち、毎年行っ
ております。今回は、十一
月二日（火）に松村康博氏、

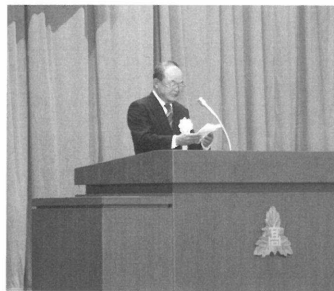
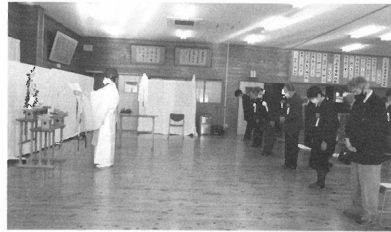


有園未佳子氏の二名におい
ていただき、ご講演をして
いただきました。松村様、
有園様、どうもありがとうございました。

7. 創立百二十周年記念式典等開催

十一月二十日(土)に行われました。新型コロナウイルス感染防止の点から、

一年延期しての開催になりました。外部からの出席者を限定して実施しましたが、無事終えることができました。創立百二十周年記念事業に携わった皆様に対しまして、この場をお借りして御礼申し上げます。どうもありがとうございます。



8. 第二十三回南九州市かわなべ青の俳句大会で学校賞と鹿児島県知事賞を受賞

第二十三回南九州市かわなべ青の俳句大会の表彰式が十一月二十七日(土)にあり、本校は学校賞を受賞しました。それに加えて、坂上祈璃さん(三年)が鹿児島県知事賞を受賞しました。なお、坂上さんの受賞



句は「単語帳 めくる頭上の流れ星」です。

9. 二年生修学旅行実施

コロナウイルス感染防止の点から、昨年は修学旅行が実施できませんでした。今年度は訪問場所や宿泊場所を鹿児島県内に限定して十二月九日(木)～十二月十日(金)の一泊二日の日程で実施しました。JAXA内之浦宇宙観測所や鹿児島空港への見学、鹿屋アスリート食堂orみなと食堂での昼食、アジア・太平洋農村研修センターでの体験学習、霧島国際ホテルでの宿泊、霧島神宮への参拝、ホテル京セラでのテーブルマナー講座等、二年生にとっては、思い出に残る修学旅行になったと思います。



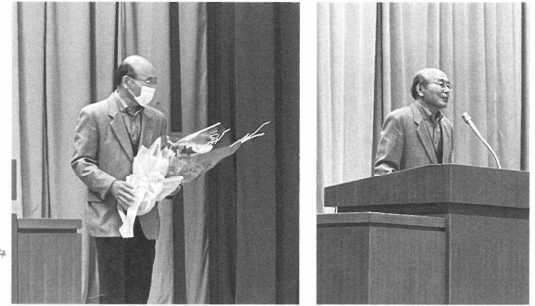


〈令和四年〉
10. 卒業式
今回の卒業式は在校生も
保護者も参加して、三月一
日(月)に行いました。



11. 西村康博先生(美術科) 離任式

長きにわたって本校での美術の指導にご尽力いただいた西村康博先生が、令和三年度末をもって、本校での勤務を終えることになり、三月十八日(金)に離任式を行いました。西村先生、どうもありがとうございました。



12. 第十七回全国高等学校 なぎなた選抜大会で三位 獲得

三月二十一日(月)に伊丹市で行われた、第十七回全国高等学校なぎなた選抜大会でなぎなた部が女子団体で三位を獲得しました。三月二十二日(火)付の南日本新聞の記事で次のように掲載されておりました。

なぎなた(二十一日・兵庫伊丹SC体育館)
○ 女子団体一回戦
川辺 2-1
鵬学園(石川)

○ 女子団体二回戦
川辺 3-0
古川黎明(宮城)
○ 女子団体三回戦
川辺 3-0
札幌国際情報(北海道)
○ 女子団体準々決勝
川辺 3-0
長府(山口)
○ 女子団体準決勝
川辺 1-2
佐賀東(佐賀)

惜敗にも手応え
一チーム三人で争うなぎなた団体で、前回準優勝の川辺が二年連続の表彰台に上がった。敗れた準決勝でも先鋒・上牧が

先勝。高山裕司監督は「惜しかった。決勝に進めるだけの力は感じた。」と手応えを語った。
上牧は前日の個人三回戦で悔しい判定負け。「相手の技を見極めようとして、自分から攻められなかつた。」という反省を胸に、団体では初戦から果敢に攻めた。五戦全勝と貢献し「練習の成果は出せた」。

大将・迫も随所で持ち味の対応力を発揮し、黒星は準決勝のみ。中堅・砂坂も試合を重ねるごとに調子を上げた。夏の全国総体に向け、上牧は「優勝を目指す。」とさらなる成長を誓った。

13. 令和四年度新任式

四月六日(火)に実施しました。令和四年度は新しく六名の先生方が赴任されました。



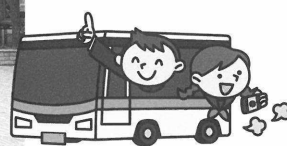
14. 新しいALTの着任

カアラ・オキーニ先生の後任のALTとして、アレクサンドラ・スタツツマン先生が四月二十一日付で本校に着任しました。



15. 一日遠足

四月二十八日(木)に、二年生は平川動物園、三年生はいおワールドかごしま水族館とマリノポートに行きました。心配された天候は午後には回復し、生徒は、楽しい一日を過ごすことができました。





17. 第二十三回神戈陵塾
令和四年度から実施時期
を変更し、六月九日（木）
に実施しました。今回は、
山口美帆子氏と日置友幸氏



の二名においていただき、
ご講演をしていただきました。
山口様、日置様、どう
もありがとうございました。

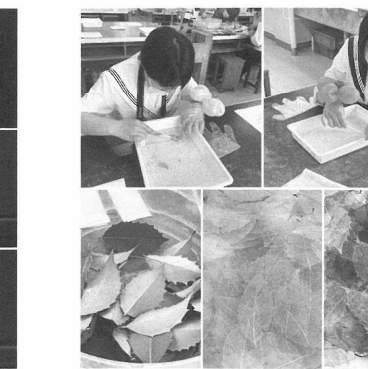
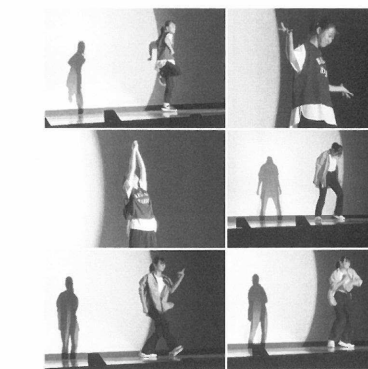
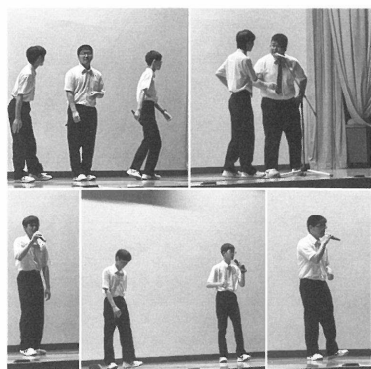
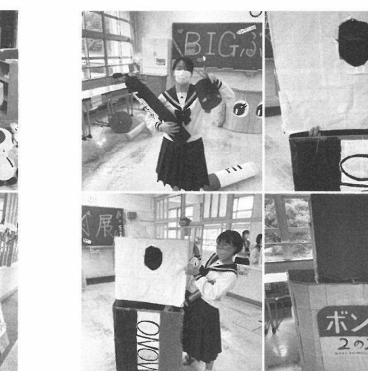
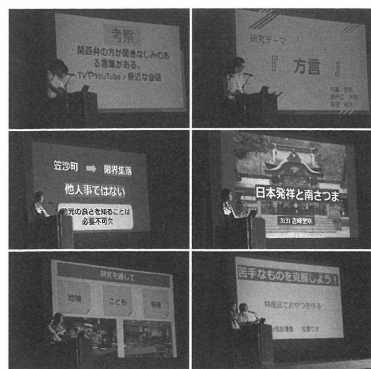
16. なぎなた部が県大会で
優勝し、インターハイに
出場決定
なぎなた部が、五月
二十一日（土）に行われた
県大会で、団体試合、個人
試合、演技競技の三部門す
べてで優勝しました。八月
に香川県で行われるイン
ターハイに出場すること
になりました。



18. 文化祭

六月十一日(土)に実施しました。昨年同様、今年も新型コロナウイルス感染症まんえん防止対策のため、外部からの入場者を制限した形で行いました。綿密な準備を行った上で、文化祭本番で最高のパフォーマンスを行っている生徒た

ちの生き生きとした姿が印象に残りました。



20. サイエンス部の出前授業
七月九日(土)にサイエンス部が川辺小学校で出前授業を行いました。川辺小学校六年の児童に対して、部員が三班に分かれて三つの実験を手ほどきして進めました。実験を通して、多く



の児童が理科に興味を持ってもらいたいと思います。



19. 音楽部定期演奏会

六月十九日

(日)に川辺文化会館で実施しました。午後のひとときを心地よい気分になさてくれる演奏に、聴衆の皆さんは聞き入っていたようでした。

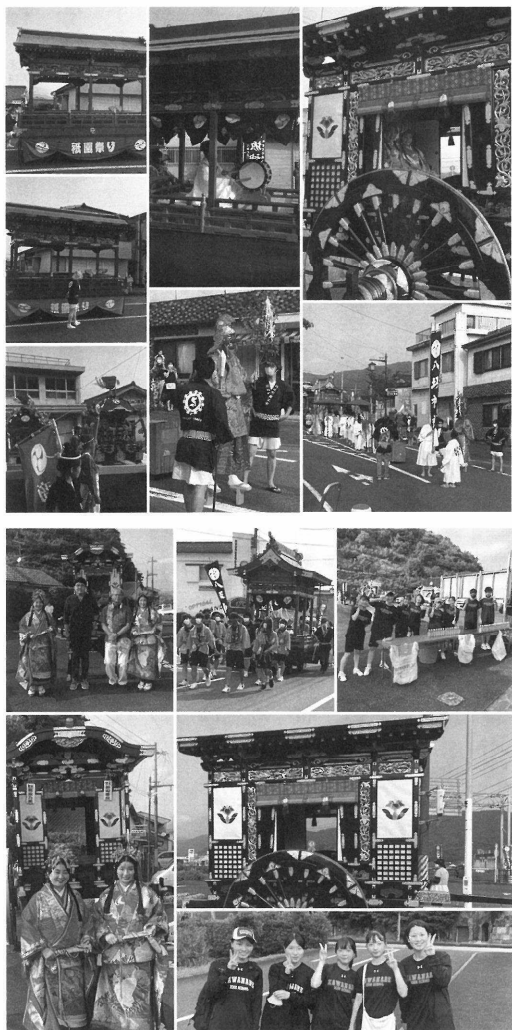


21. 川辺祇園祭へのボランティア

ティア

川辺祇園祭が七月二十四

日(日)に規模を縮小した形で三年ぶりに行われました。本校生も、祇園祭に関する業務のボランティアとして携わりました。



事務局だより

【令和三年度神戈陵教育振興会奨学生決定】

令和三年度「神戈陵教育振興会奨学生」として、学術・スポーツ振興面で、三年生の田代帆夏さん（桜山中卒）、國光蓮さん（福平中卒）、蓮子結夢さん（福平中卒）、坂上祈璃さん（万世中卒）に決定し、十二月二十四日（金）に本校校長室で認定書及び奨学金を交付しました。



【令和四年度のスタート】

四月七日（木）、第七十七回入学式が本校体育館で挙行され、新入生六十八名を迎え、全校生徒

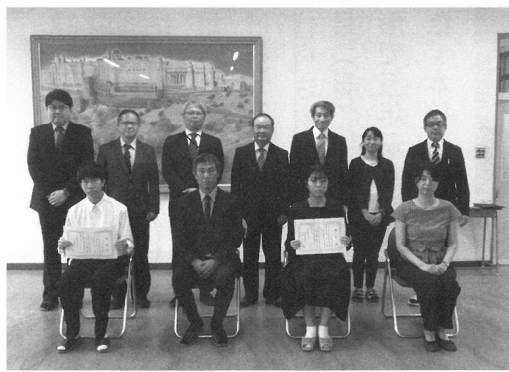


百五十九名（男子五十四名、女子百五名）で令和四年度がスタートしました。今回は、新型コロナウイルス対策を行った上で、久しぶりに在校生全員が参加した形で実施しました。



【令和四年度神戈陵教育振興会奨学生（一年生対象）決定】

授与式を、四月二十七日（水）に本校会議室で行いました。優秀な成績で入学した宇都瑛介君（川辺中卒）と松元結愛さん（川辺中卒）に、認定書及び奨学金を交付しました。



【お知らせ】

○川辺高等学校創立百二十周年記念式典終了のご報告

創立百二十周年記念式典は、昨年（令和三年）十一月

月二十日（土）に実施いたしました。新型コロナウイルス感染症防止のため、関係者のみが出席しての式典になりましたが、無事に終えることができました。記念式典の実施に際しまして、ご協力をいただきました皆様には、この場を借りまして厚く御礼申し上げます。

○令和四年度神戈陵教育振興会奨学生（三年生対象）について

例年は七月に、奨学生になった生徒への授与式を行っていましたが、今回は事前の審議の結果、授与対象者なしということになりましたので、授与式は行いませんでした。

○令和四年度川辺高校中学生一日体験入学

八月二十三日（火）に行います。

令和3年度川辺高等学校同窓会会計決算書

(期間 令和3年7月1日～令和4年6月30日)

収入の部

(単位:円)

費 目	予算額①	決算額②	増減 ② - ①	備 考
入 会 金	80,000	68,000	△ 12,000	1,000 円× 68 名 (新入生)
会 費	132,000	132,000	0	2,000 円× 66 名 (卒業生)
総 会 費	0	0	0	同窓会総会参加費
繰 入 金	2,000,000	2,000,000	0	積立基金より
繰 越 金	206,970	206,970	0	前年度繰越金
雑 収 入	30	2,300,271	2,300,241	預金利息・120周年会計より
合 計	2,419,000	4,707,241	2,288,241	

支出の部

(単位:円)

費 目	予算額①	決算額②	増減 ① - ②	備 考
総 会 費	10,000	10,640	△ 640	総会案内ラベル等
会 議 費	20,000	12,048	7,952	役員会会議費
需 用 費	240,000	151,760	88,240	同窓会報印刷代他
通 信 費	500,000	313,950	186,050	切手・はがき代
広告宣伝費	30,000	15,000	15,000	川辺町スタンプ会チラシ広告代
慶 弔 費	100,000	50,000	50,000	転・退職教職員への餞別他
旅 費	330,000	0	330,000	東京・大阪・福岡同窓会への旅費
負 担 金	210,000	0	210,000	各地区同窓会等への負担金他
高校振興費	800,000	641,900	158,100	活性化対策事業補助 500,000 円 文化祭補助 50,000 円 その他高校の振興に関する費用
雑 費	40,000	1,640	38,360	各地区同窓会等へ資料等送料
予 備 費	139,000	0	139,000	
合 計	2,419,000	1,196,938	1,222,062	

収 入 支 出
4,707,241 円 - 1,196,938 円 = 3,510,303 円 (令和4年度へ繰越)

特別基金 (ゆうちょ銀行: 定期預金) 2,500,159 円 (6月15日現在)

令和4年度川辺高等学校同窓会会計予算書 (案)

(期間 令和4年7月1日～令和5年6月30日)

収入の部

(単位:円)

費 目	本年度予算額	前年度予算額	増 減	備 考
入 会 金	80,000	80,000	0	1,000 円× 80 名 (新入生)
会 費	114,000	132,000	△ 18,000	2,000 円× 57 名 (卒業生)
総 会 費	250,000	0	250,000	同窓会総会参加費
繰 入 金	1,000,000	2,000,000	△ 1,000,000	積立基金より
繰 越 金	3,510,303	206,970	3,303,333	R3年度からの繰越金
雑 収 入	1,697	30	1,667	預金利息等
合 計	4,956,000	2,419,000	2,537,000	

支出の部

(単位:円)

費 目	本年度予算額	前年度予算額	増 減	備 考
総 会 費	250,000	10,000	240,000	同窓会総会費他
会 議 費	30,000	20,000	10,000	役員会など会議費
需 用 費	240,000	240,000	0	同窓会報印刷代他
通 信 費	500,000	500,000	0	切手・はがき代 (総会・役員会案内)
広告宣伝費	0	30,000	△ 30,000	チラシ広告料
人 件 費	60,000	0	60,000	事務補助 R4.7 ~ R5.6
慶 弔 費	100,000	100,000	0	転退職教職員への記念品代他
旅 費	330,000	330,000	0	東京・大阪・福岡同窓会等への旅費
負 担 金	210,000	210,000	0	各地区同窓会等への負担金他
高校振興費	800,000	800,000	0	活性化対策事業補助 500,000 円 文化祭補助 50,000 円 その他高校の振興に関する費用
雑 費	40,000	40,000	0	各地区同窓会等への土産代他
拠 出 金	2,249,085	0	2,249,085	定期預金へ
予 備 費	146,915	139,000	7,915	
合 計	4,956,000	2,419,000	2,537,000	

各 地 区 同 窓 会 連 絡 先				事務局	川辺高等学校 〒897-0221 鹿児島県南九州市川辺町田部田4150	TEL0993-56-1151 FAX0993-56-1152
川 辺 同 窓 会	会 長	森 田 剛	高 2 0	〒897-0221	南九州市川辺町上山田	事務局 (川辺高校内) 0993 56 1151
	副 会 長	東 眞 宏	高 1 3		南九州市川辺町永田	
	副 会 長	中 村 祐 子	高 1 4		南九州市川辺町今田	
	副 会 長	蘭 田 政 嗣	高 1 5		南九州市川辺町田部田	
	副 会 長	松久保 正 毅	高 2 4		南九州市知覧町西元	
	副 会 長	高 田 政 雄	高 2 5		南九州市川辺町宮	
	副 会 長	新 原 誠	高 2 5		南九州市額娃町上別府	
	副 会 長	鮫 島 宏 規	高 2 6		南九州市知覧町西元	
	副 会 長	久 松 広 充	高 2 9		南九州市川辺町田部田	
	副 会 長	松木田 統 一	高 2 9		南さつま市加世田本町	
	副 会 長	宇 都 和 一	高 3 0		南九州市川辺町平山	
	副 会 長	蘭 田 一 也	高 3 2		南さつま市加世田川畑	
	副 会 長	上之園 修	高 3 3		南九州市川辺町平山	
	副 会 長	上 妻 みゆき	高 3 3		南九州市川辺町清水	
	副 会 長	東 成 功	高 3 4		南九州市川辺町永田	
	副 会 長	宇 都 寿 彦	高 3 6		南九州市川辺町平山	
	副 会 長	野 中 康 博	高 3 7		南さつま市加世田唐仁原	
	副 会 長	岡 野 和 典	高 3 8		南九州市川辺町平山	
副 会 長	大倉野 格 三	高 4 0	南九州市川辺町下山田			
監 事	辰 野 正 寿 子	高 3 9	南九州市川辺町平山	事務局 (川辺高校内) 0993 56 1151		
監 事	宮 原 楊 子	高 1 4	南九州市知覧町郡			
監 事	野 中 行 夫	高 1 8	南九州市川辺町野崎			
監 事	土 喰 光 郎	高 2 0	南九州市川辺町中山田			
顧 問	菊 野 政 美	旧中 3 7	南九州市川辺町田部田			
顧 問	前 野 和 浩	高 7	南九州市川辺町平山			
事務局	内 蘭 和 浩		南九州市川辺町田部田 4150			
東 京 同 窓 会	会 長	森 山 昭 利	高 1 8	〒102-0072	東京都新宿区南山伏町	事務局 (株)益進社内) 03-3262-3471
	副 会 長	峯 苦 稔	高 1 8		茨城県北相馬郡利根町	
	幹 事	山 本 朗	高 2 5		神奈川県横浜市泉区緑園	
	幹 事	内 村 哲 也	高 2 7		神奈川県川崎市宮前区	
	事務局	林 昭 子	高 2 7		東京都西東京市中町	
東 海 同 窓 会	会 長	飯 野 布 志 夫	高 3	〒467-0005	愛知県名古屋守山区小幡北	事務局 052-835-0527
	副 会 長	二反田 統 男	高 7		愛知県名古屋北区大杉	
	副 会 長	日 置 宏 輔	高 1 0		愛知県愛知郡長久手町岩作三ヶ峯	
	幹 事	山 内 幹 彦	高 2 2		愛知県名古屋瑞穂区石川町 4-8-1	
	事務局					
関 西 同 窓 会	会 長	岩 屋 口 大 造	高 1 6	〒561-0842	兵庫県宝塚市仁川月見ガ丘	事務局 (有)島津内) 06-6866-6575
	副 会 長	梅 橋 弘 芳	高 6		奈良県生駒郡三郷町三室	
	副 会 長	河 津 由 美 子	高 1 5		大阪府大阪市旭区太子橋	
	事務局				大阪府豊中市今在家町 8-26	
	事務局					
福 岡 同 窓 会	会 長	佐 多 竹 良	高 2 0	〒810-0041	福岡県北九州市若松区高須西	事務局 092-736-1531
	副 会 長	堀 内 勉	高 1 9		福岡県福岡市城南区東油	
	副 会 長	上 野 修 一	高 2 0		福岡県宗像市大谷	
	事務局	南 谷 洋 至	高 2 6		福岡県福岡市中央区大名 1-8-12	
	事務局					
熊 本 同 窓 会	会 長	梅 橋 豊 藏	高 1 5	〒861-1102	熊本県熊本市山室	事務局 096-200-1721
	幹 事	丸 野 真 一	高 3 4		熊本県合志市須屋 1733-31	
宮 崎 同 窓 会	会 長	芝 原 正 文	高 1 9	〒880-0211	宮崎県東諸県郡国富町八代北俣	事務局 0985-73-0826
	副 会 長	泊 直 十 郎	高 1 4		宮崎県北諸県郡三股町稗田	
	副 会 長	和 田 政 吉	高 2 0		宮崎県宮崎市大字赤江	
	幹 事	松 山 輝 雄	高 1 1		宮崎県宮崎市佐土原町下田島 9236	
	事務局					
鹿 児 島 同 窓 会	会 長	寺 師 慶 志	高 1 8	〒890-0007	鹿児島市伊敷台 1-7-6	事務局 080-1733-0087
	事務局					
南さつま地区同窓会	会 長	上 野 寿 郎	高 2 7	〒897-1121	南さつま市加世田益山	事務局 0993-53-2555
	副 会 長	中 尾 良 嗣	高 2 9		南さつま市笠沙町片浦	
	幹 事	西 浩 二	高 2 5		南さつま市加世田川畑	
	事務局	中 馬 悟 高	高 3 0		南さつま市加世田唐仁原 1245	
	事務局					
知 覧 地 区 同 窓 会	会 長	松久保 正 毅	高 2 4	〒897-0306	南九州市知覧町西元 5928	事務局 0993-84-0806
	副 会 長	市 坪 政 昭	高 1 8		南九州市知覧町郡	
枕 崎 ・ 坊 津 地 区 同 窓 会	会 長	吉 見 昭 光	高 1	〒898-0041	南さつま市坊津町久志	事務局 0993-72-6572
	副 会 長	森 栄 子	高 2 4		枕崎市中町	
	副 会 長	戸 床 安 孝	高 1 0		枕崎市塩屋北町 21	
	幹 事					